

設計品質向上シリーズ

「設計手順の標準化」 推進セミナー

開催日時

2025年12月 8日(月)

大阪会場

2026年 2月10日(火)

オンライン

各回とも 10:00~17:00

対 象

- ・開発、設計、技術、品質保証部門の方
- ・設計手順標準化の効果的な考え方に関心のある方
- ・中堅～ベテランエンジニアの方
- ・設計部門のレベルアップを図りたい方

講 師

渡部 訓久 氏

(株)日本能率協会コンサルティング
シニア・コンサルタント

参加料(税込)

法人会員：55,000円/1名

会 員 外：66,000円/1名

※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。)
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。
<https://www.jma.or.jp/membership/>
※お申込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申込みください。

開発設計の現場の課題

効率化・スピード・コストが最優先で求められてきた結果、発生した不具合の根本原因の追究と対策や、技術の深掘り、人材育成等に時間がかかけられず、類似問題の再発によって顧客の信頼が失墜し、技術力や知的生産性が退化してしまっているように感じます。

この状況を打破するには「設計検討の質」を重要視すべきです。

既知の領域は確実に伝承し、確固たる開発設計の基盤を確立することが、新たな価値創出には不可欠となるからです。

本セミナーでは、「設計手順の標準化」を切り口に、「より筋の良い」設計の伝承方法を学んでいただきたく企画しました。

みなさまのご参加をお待ちしております。

設計手順標準化の意義

- ・製品構造の標準化よりも普遍性が高い
- ・若手設計者が一人で設計できることにより、ベテランらしい仕事に特化できる
- ・常により最適な設計手順にブラッシュアップすることができる
- ・属人的になりがちな製品設計。暗黙知を見える化することで組織全体の財産になる

設計検討の質を高めてこんな状態から脱出しよう

- ・曖昧な仕様による基本・詳細設計のやり直し
- ・検討不十分な状態で評価段階へ移行したことによる、評価段階での不具合対応増加
- ・評価項目のヌケ・モレによるフィールド問題増加
- ・設計品質が安定しないことによる次機種へのリソースシフト遅れ
- ・納期遅延による売上機会損失

参加者の声

- ・社内で使うキーワードや同じ事例がとて多く、自社の問題へと置き換えることができ、とても良かった。
- ・何を見える化するべきか整理できた。標準化の方法や進め方について、社内提案の良い材料となった。
- ・設計の標準化は過去の知見だけでなく、未来に向けた検討をするべきという点にはとしました。
- ・豊富な経験から、質問に丁寧かつ的確に回答いただけた。貴重な講義をありがとうございました。
- ・事例と似ている自社の問題に対して質問したところ、具体的な対応例を伺うことができた。
- ・プランニングが参考になった。他部門への説明に対して、納得性の得られる説明に活用できそうだ。

■ プログラム

10:00~17:00 [昼食] 12:00~13:00

1 設計品質向上概要

- (1)設計品質に関する現状の問題点
- (2)設計品質向上の基本的な考え方と基本手法
- (3)設計品質の振り返り分析

個人ワーク グループワーク

2 設計現場における技術伝承と暗黙知の見える化のポイント

- (1) 技術伝承の場 演習
 - ・DR、審査会などの公式の場
 - ・定例ミーティング、打合せ、相談などの日常コミュニケーションの場

(2)暗黙知の見える化手法

- ・設計手順の標準化手法：IPDO標準化の解説
- ・IPDO標準化のデモンストレーション

(3)技術資産としての過去トラ情報活用方法

- ・過去トラ情報で参照すべきポイント
- ・過去トラ情報として蓄積すべき情報

3 設計標準化について

- (1)標準化の目的
- (2)標準化対象ごとの基本概念

※プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

